

日・エクアドル外交関係樹立100周年記念：総理メッセージ

日・エクアドル外交関係樹立100周年に際し、本日、記念式典が開催されますことを、日本国政府及び日本国民を代表し、心からお喜び申し上げます。

1918年8月26日、日本とエクアドルの両国は、修好通商航海条約を締結しました。また、同年は、日本でも著名な細菌学の医師である野口英世博士が、初めてエクアドルを訪問したことが契機となり、黄熱病の極めて重要な研究が開始された年でもあります。

日本とエクアドルは、その後100年にわたって、政治、経済、文化等の幅広い分野で交流を深めて参りました。エクアドルでは日系企業が自動車関連分野で積極的に活動し、日本ではバナナやカカオといったエクアドル産品が親しまれています。昨年5月に就任されたモレノ大統領は、その力強いリーダーシップをもって、一層開かれた経済政策を推進されています。今後、日本企業のエクアドル進出や投資が増え、両国の経済関係がさらに強化されることを心から期待しています。

日本とエクアドルは、太平洋を挟んだパートナーです。昨年8月には、海上自衛隊練習艦隊がグアヤキルに寄航しました。同艦隊の関係者は、地元の方々から大歓迎を受け、両国の友好親善の新しい歩みとなりました。近年は、防災や気候変動対策分野での協力が進展しているほか、日本からは、これまで多くの青年海外協力隊や専門家等がエクアドルに派遣されてきており、両国の相互理解の促進に貢献しています。

本年、100周年の節目を迎え、日・エクアドル関係の歴史に新たな1ページが刻まれました。両国政府及び両国国民の間の協力関係が次の100年においても一層促進されることを心から祈念して、私の祝辞とさせていただきます。

平成30年1月10日

日本国内閣総理大臣 安倍晋三